

■シンポジウム

Ocean Energy for Tohoku Regeneration 海洋エネルギー東北再生

13:40~14:50 < 取組発表 >

「わが国におけるエネルギー政策の動向について ~3E+Sの実現に向けたエネルギーミックス~」

●資源エネルギー庁電力・ガス事業部 須山照子 氏

「岩手県における海洋再生可能エネルギーの取組」

●岩手県政策地域部科学 | L C 推進室 室長 佐々木 淳

「三陸復興に向けた岩手大学の取組」

•岩手大学副学長(復興担当)八代仁

15:00~16:20 <特別講演>

「浮体式洋上風力発電の取組」

•スタットオイル社 (ノルウェー) Anita H. Holgersen 氏

「海洋エネルギーと東北の都市再生」

•建築家·元東京大学生産技術研究所講師 太田浩史 氏

16:30~17:30 <パネルディスカッション>

「海洋エネルギーと三陸のまちづくり、仕事づくり」

- •スタットオイル社 (ノルウェー) Anita H. Holgersen 氏
- ●資源エネルギー庁電力・ガス事業部 須山照子 氏
- •建築家·元東京大学生產技術研究所講師 太田浩史 氏
- •岩手大学工学部機械システム工学科 准教授 三好 扶 氏
- ●(公財) 釜石・大槌地域産業育成センター 顧問研究員 黒崎 明 氏
- ●岩手県海洋エネルギー産業化研究会 副会長 小鯖利弘 氏

- •スタットオイル: ノルウェーに 本社を有する国際的な石油・ガス 企業。世界 30 カ国以上で積極的 に事業を展開。浮体式洋上風車分野 では先駆的な取組を実施中。
- ノルウェー: 国内エネルギー需要 の 6 ~ 7 倍相当分を輸出するエネルギー輸出国。再生可能エネルギー分野では、水力・風力の開発を推進。

| 講師・パネリストご紹介 |

- ●スタットオイル社 プロジェクトマネージャー Anita H. Holgersen 氏 海洋石油・ガス開発で豊富な実績を有する ノルウエーの Statoil 社が英国の洋上に建設した着床式洋上風力発電所(シェリンハム・ショール:出力約 32 万キロワット)や、世界初の浮体式洋上風力発電プロジェクト「ハイウィンド」において、施設及び調達担当責任者としてプロジェクトに参画。現在は日本での展開を目指して活動中。
- ●経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力広報官須山照子氏エネルギーミックスに関する政策立案を担当。H25年7月からH27年7月まで新エネルギー対策課勤務。経済産業省が福島沖で実施している浮体式洋上ウィンドファーム実証事業のプロジェクト推進に従事。
- •建築家・元東京大学生産技術研究所講師 太田浩史 氏 都市再生学。工学博士。主な作品に「AGC スタジオ」「久が原のゲストハウス」「Populous CAPE」。OETR での連携研究を通じて、海洋エネルギーによる東北の沿岸都市再生の可能性を提唱。
- •岩手大学工学部機械システム工学科准教授 三好扶氏 ロボット工学。博士(学術)。東日本大震災を機に、水産業・水産加工業や海洋・水産資源調査や管理にロボット技術を展開するため、「水産ロボティクス」を提唱。
- •(公財) 釜石・大槌地域産業育成センター 顧問研究員 **黒崎 明**氏 海洋空間利用。工学博士。三井造船株式会社、東京大学生産技術研究所特任教授を経て現職。釜石市沖海洋再生可能エネルギー実証フィールドでの研究開発(リニア式波力発電)総括研究員。
- •岩手県海洋エネルギー産業化研究会 副会長 小鯖利弘 氏 株式会社小鯖船舶工業(岩手県釜石市)代表取締役。 アルミ船の建造では高い技術力を持つ。海洋エネルギー分野では、リニア式波力発電のほか、地元企業を中心とした 海洋エネルギー活用試作品の研究開発に参画中。